

未来ノート

-202Xの君へ-

レスリング

いちょうかおり
伊調馨

予告した五輪金

4年に1度の心

覚悟は決まった

わからないから

自分で言ったことは守る

レスリング女子で五輪4連覇中の伊調馨(34)は今年から19年前、自分の将来を予告した。愛知・中京女子大付高(現・至学館高)のレスリング部新人歓迎会で「オリンピックに出て金メダルをとります」と。2000年のことだ。

04年のアテネ五輪からレスリング女子が採用される、と決まったのは01年。当時はまだ五輪種目ではな

かった。周りの人から突っ込まれ、あわてて地元青森のレスリング教室「八戸クラブ」の沢内和興代表(72)に電話した、という笑い話が残る。レスリングを始め

た3歳のころから指導を受ける沢内代表について「私

(五輪に)出てみる、頑張れとしか言われなかった」と苦笑する。

沢内代表は根拠もなく言っていたわけではない。教

え子らと遠征で訪れた欧州で、女子の競技人口が多いことを肌で感じた。近い将来、五輪種目になると確信したからこそ、夢を壊すこ

ろ、北海道・東北地方の大会決勝で男子と対戦する予定だったが、怖くて泣き出した。少し時間をおいても、相手の顔を見た瞬間にまた泣いて試合をしなかつた。沢内代表は「子どもにも意思がある。嫌なことは無理させちゃだめ」と尊重

した。伊調は「あの時、無理やり出させられていたら、トラウマになってレスリングが嫌いになっていたらと思う」と振り返る。

ただ、この時、2人の間で一つの約束も交わされて



①リオデジャネイロ五輪でも金メダルに輝き、4連覇を果たした伊調馨=2016年
②8歳ごろの伊調馨(右)と恩師の沢内和興さん=提供

いた。恩師が「相手も強い。いつかまたどこかで当たることになる。その時、勝つなら今は棄権しよう」と言うのと、伊調はうなずいた。次の対戦で勝利。自分で言ったことは守るのが伊調流である。

(藤田絢子)

◆「未来ノート」スクラップブックは、全国のASA(朝日新聞販売所)でお配りしています。インターネットの特設ページではイベントやスクラップブックについて詳しく紹介しています。「未来ノート 朝日新聞」で検索してください。